

シンポジウム

都市の緑は誰のものか

文理を越えた学問からの問いかけ

再開発、道路建設、樹木伐採——
四つの視点と四つの学問から、
都市の緑の価値、公共性、意思決定を問い直す



9月23日(水・祝) 13:00-17:00



明治大学 駿河台キャンパス
グローバルフロント1階 グローバルホール

予約不要・参加自由

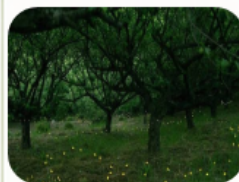
登壇者



鯨坂 学

同志社大学社会学部名誉教授

専門：社会学
現場：京都府立植物園



太田 和彦

南山大学総合政策学部准教授

専門：環境倫理学・食農倫理学
現場：名古屋市・相生山



高槻 成紀

元麻布大学教授

専門：生態学・保全生態学
現場：東京都・玉川上水



吉永 明弘

法政大学人間環境学部教授

専門：環境倫理学
現場：流山市



コメンテーター

大矢野 修

元龍谷大学政策学部教授
専門：地方自治論



企画・司会

池田 喬

明治大学文学部教授
専門：哲学・現象学



本シンポジウムの目的

現在、再開発や道路建設に伴う都市の緑の伐採が、日本各地で問題となっています。都市の緑は、環境や生態系だけでなく、景観、都市計画、コモンズ、地方自治、環境権にもかかわる公共的な問題です。本シンポジウムでは、それぞれの現場に具体的に関わってきた研究者が、社会学、環境倫理学、生態学、地方自治論の視点から、都市の緑をめぐる意思決定のあり方を問い直します。



関連書籍

太田和彦・吉永明弘 編

都市の緑は誰のものか——
人文学から再開発を問う

ハウレーカ、2024年



主催

明治大学文学部哲学専攻



共催

法政大学人間環境学部 吉永明弘研究室
南山大学総合政策学部 太田和彦研究室